

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～21世紀に重要視される唯一のスキルとは？～

岸田文雄首相が27日の参院本会議で、賃金上昇やキャリアアップに向け、産休・育休中の**リスキ**ングを「後押しする」と答弁した。28日には「リスキリング」「産休・育休中」の言葉がツイッターのトレンド入りした。さて・・・リスキリングとは・・・知っていますか？

21世紀に入って、人々のごく身近に喫緊の2つの課題に直面していると感じています。

1つは、私たちの生活の糧を得る手段である仕事・職業の寿命がどんどん短くなっていることです。情報技術（IT）、人工知能（AI）、ロボット、これらを総合したデジタルトランスフォーメーション（DX=ITによる変革）があらゆる職域、社会システムに入ってきて、人の働き方に大変革をもたらしつつありその加速度を増しているということです。

いま1つは、人の寿命が80年を超え、人生百年という感覚が普通になりつつあるということです。20世紀後半までは人は定年後、10年から15年くらいがせいぜいと考えてきました。百年もの人生が与えられた私たちは、生涯をどう楽しく働き、健全に生きたらよいのでしょうか。未曾有の難事です。

現代経営学の祖にして未来学者、預言者とも呼ばれたピーター・ドラッカーは、20世紀末に、近未来の21世紀を予測して次のように言っています。

「21世紀に重要視される唯一のスキルは・・・」

新しいことを学ぶスキルである。

それ以外は、すべて時間とともにすたれていく。」

慧眼（けいがん）だと思います。いま、私たちが携わっている仕事、業務は10年～20年後には消滅している確率が非常に高く、この言葉に納得せざるを得ない状況になっています。

ドラッカーは、最近言われ始めた・・・

「リスキリング・リカレント（新しい知識の習得、学び直し）」

の必要性を正確に予測していたのです。

「致知」3月号 巻頭の言葉

「冥冥の志なき者は、昭昭の明なく 昏昏の事なき者は、赫赫の功なし」

JFEホールディングス名誉顧問 数土 文夫



ドラッカーは・・・すでに20世紀末にリスキリングについてその必要性を提唱してたんですね。

「これまで通り」や「現状維持」という考え方や視点では生き抜くことができないということです。

これまでの自分や今の自分にとらわれることなく、時代の変化を見極めながら、生涯新しい考え方・視点・知識・技術を、**学び続けていこうとする姿勢**が必要ということではないでしょうか。さあ、今週は探究フォーラムが行われます。

「学び直し」と「新しいことを学ぶスキル（姿勢）」を身に付けていきましょう！！

